

横須賀市中小企業景況レポート

第 48 号（令和 6 年 10 月号）

編集・発行：横須賀市経済部経済企画課
〒238-8550 横須賀市小川町 11
電話 046-822-9523

市内中小企業の景況感を調査しました。

調査対象は、かながわ信用金庫と湘南信用金庫が従来から行っている景況調査先のうちの市内企業に加え、横須賀市及び横須賀市産業振興財団がさらに追加調査しました。

3 か月に 1 回発行しています。

【市ホームページからもご覧いただけます。】

横須賀市中小企業景況レポート | 横須賀市

<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4402/keikyoreport/yokosukasikeikyuripoto.html>

- ① 調査対象：市内中小企業
- ② 調査企業数：161 社（うち、かながわ信用金庫＋湘南信用金庫 調査 145 社）
- ③ 調査期間：前期・・・令和 6 年 4 ～ 6 月の景況感（調査時点 令和 6 年 6 月 1 日）
今期・・・令和 6 年 7 ～ 9 月の景況感（調査時点 令和 6 年 9 月 1 日）
次期・・・令和 6 年 10 ～ 12 月の景況感（調査時点 ” ）
- ④ 調査項目：景況、売上額、収益、雇用人員、資金繰り
- ⑤ 業種分類：製造業、建設業、卸・小売業、不動産業、サービス業
- ⑥ 集計方法：D I 値算出による（次ページに D I 値の説明あり）

景況及び 4 項目の調査結果（全業種）

* D I 値調査結果は裏面に記載

* 【 】は今期の D I 値を記載

全業種の景況感は、前期の 4 P から 1 P 低下し、今期は【3 P】となりました。

今期の景況感は、不動産業【0 P】は 25 P 大幅に向上し、製造業【9 P】、建設業【17 P】は、それぞれ 7 P、6 P やや向上しました。一方、卸・小売業【△16 P】、サービス業【8 P】は、それぞれ 14 P、7 P やや低下しました。

項目別では、売上額【4 P】、収益【△5 P】、雇用人員【△29 P】は横這いですが、資金繰り【△10 P】は、6 P やや低下しました。

昨年同期（令和 5 年 7 月～9 月）との景況感比較は、今期構成比【7 P】で、前期構成比【4 P】と比べ、横這いの状況です。

景況感は横這いの状況ですが、依然として原材料費高騰による収益への影響や人手不足による受注機会損失の声が聞かれます。

DI 値・・・良い（多い）、変わらない（普通）、悪い（少ない）の回答のそれぞれが全体に占める構成比を求めます。次に、良い（多い）等の構成比（％）－悪い（少ない）等の構成比（％）を計算した値が DI 値となります。プラス値が大きいほど景況感が良く（好況）、マイナス値が大きいほど景況感が悪い（不況）と言えます。

このレポートは次の基準で景況感を分類しました。（マイナスは△表示）

向上 (15 P 以上)	やや向上 (6 P ～ 14 P)	変わらない (△ 5 P ～ 5 P)	やや低下 (△ 6 P ～ △ 14 P)	低下 (△ 15 P 以下)
↑	↗	→	↘	↓

業種別 調査結果と事業者の声

＊ DI 値調査結果は裏面に記載

（１）製造業 景況感 【 9 P <やや向上> ↗ 】 （前期比 7 P）

前期と比べ、雇用人員【△25 P】、収益【6 P】、資金繰り【△10 P】は、それぞれ 13 P、6 P、6 P やや向上しました。売上額【△3 P】は横這いの状況です。

次期は、売上額、資金繰りがやや向上し、収益がやや低下の見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・材料費高騰の影響を受けてきたが、原材料、仕入れ価格が回復してきており利益微増。
- ・建設業や製造業の発注企業からの依頼が増加しているものの、労働力不足もしくは就労人口の減少により、これに対応ができていないため売り上げは前年度と同じになっている。

（２）建設業 景況感 【 17 P <向上> ↑ 】 （前期比 6 P）

前期と比べ雇用人員【△38 P】が 16 P 向上しましたが、資金繰り【△9 P】は、18 P 低下し、売上額【8 P】、収益【△8 P】は、それぞれ 12 P、14 P やや低下しました。

次期は、収益が向上し、売上額はやや向上する見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・長引く不況で人員を削減していた期間が長いので、好況になって需要が増え、仕事の依頼が入っても、いきなりすべて対応できない。
- ・建設業界全体の人手不足等の影響もあり、受注単価の上昇及び着工案件も増加。外国人技能実習生も新規採用したことで、こなせる受注が増加している。

(3) 卸・小売業 景況感 【 $\Delta 16 P$ <低下> 】 (前期比 $\Delta 14 P$)

前期と比べ、売上額【 $\Delta 6 P$ 】、収益【 $\Delta 18 P$ 】、資金繰り【 $\Delta 19 P$ 】は、それぞれ13P、11P、7Pやや低下しました。雇用人員【 $\Delta 30 P$ 】は、横這いの状況です。

次期は、売上額、収益が向上する見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・仕入価格・人件費・光熱費の高騰が当面続くと思われ、先行きは不透明。
- ・物価上昇の影響で、消費者の生活が逼迫していることから、消費が衣服にまで行き届いていない。
- ・酷暑の影響で人出が少ない。特に昼間の12:00～16:00の時間帯が少なく感じる。行楽への出費が大きいのか、客単価が落ちている。

(4) 不動産業 景況感 【 $0 P$ <変わらない> 】 (前期比 25P)

前期と比べ、売上額【14P】が、39P大幅に向上し、収益【7P】が15P向上し、雇用人員【 $\Delta 20 P$ 】、資金繰り【7P】は、横這いの状況です。

次期は、すべての項目で、やや向上する見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・不動産価格の高止まりと住宅ローン需要がやや旺盛であることから、仲介部門の業況は比較的良い。
- ・営業強化を図るため新たに従業員1人を雇用し、現地販売等で顧客との接触機会を増やしながら契約に結び付ける体制を構築している。
- ・材料費高騰の影響による高めの価格設定、今後の景気先行き不透明感及び今後の金利動向に対する不安により顧客側も様子をうかがっている状況。

(5) サービス業 景況感 【 $8 P$ <やや向上> 】 (前期比 $\Delta 7 P$)

前期と比べ、売上額【11P】、収益【3P】、雇用人員【 $\Delta 26 P$ 】は横這いの状況で、資金繰り【 $\Delta 3 P$ 】は、9Pやや低下しました。

次期は、売上額、収益がやや向上し、雇用人員はやや低下する見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・利用者に対して人手が足りない状況が続いていたが、従業員採用により売上増加に対応できた。
- ・飲食・宿泊共に、昨年に続き好調。さらに顧客は一見客が多く、客足の回復基調が感じられる。

DI 値 調査結果

前・・・前期 令和6年4月～6月の景況感（調査時点 令和6年6月1日）
今・・・今期 令和6年7月～9月の景況感（調査時点 令和6年9月1日）
次・・・次期 令和6年10月～12月の景況感（調査時点 令和6年9月1日）



業種別調査企業数(回答数)

(単位：社)

	全業種	製造業	建設業	卸・小売業	不動産業	サービス業
前期	166	37	35	49	12	33
今期	161	32	34	46	14	35
次期	161	32	34	46	14	35

(単位：ポイント)

項目	全業種			製造業			建設業			卸・小売業			不動産業			サービス業		
	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次
景 況	景況全般について総合的な概況をお聞きました。																	
良 い(A)	26	22	22	24	28	19	34	35	29	20	17	20	0	7	14	36	17	26
変わらず	52	59	65	54	53	59	43	47	59	58	50	65	75	86	86	43	74	65
悪 い(B)	22	19	13	22	19	22	23	18	12	22	33	15	25	7	0	21	9	9
DI値(A)－(B)	4	3	9	2	9	△3	11	17	17	△2	△16	5	△25	0	14	15	8	17
今－前 / 次－今	△1	6		7	△12		6	0		△14	21		25	14		△7	9	
売 上 額	製造業については、生産品を出荷した額をお聞きました。																	
好 転(A)	31	24	29	24	25	28	40	29	29	31	22	28	8	21	21	36	20	34
変わらず	44	56	57	49	47	47	40	50	59	45	50	55	59	72	79	37	71	57
悪 化(B)	25	20	14	27	28	25	20	21	12	24	28	17	33	7	0	27	9	9
DI値(A)－(B)	6	4	15	△3	△3	3	20	8	17	7	△6	11	△25	14	21	9	11	25
今－前 / 次－今	△2	11		0	6		△12	9		△13	17		39	7		2	14	
収 益	売上から経費を引いた収益状況をお聞きました。																	
増 加(A)	23	16	22	24	22	19	26	18	26	20	11	20	17	14	21	24	17	26
変わらず	53	63	64	52	62	62	54	56	56	53	60	63	58	79	79	52	69	65
減 少(B)	24	21	14	24	16	19	20	26	18	27	29	17	25	7	0	24	14	9
DI値(A)－(B)	△1	△5	8	0	6	0	6	△8	8	△7	△18	3	△8	7	21	0	3	17
今－前 / 次－今	△4	13		6	△6		△14	16		△11	21		15	14		3	14	
雇用人員	需要に対応できる労働状況をお聞きました。																	
多 い(A)	5	3	3	8	9	9	0	3	0	4	0	2	0	0	0	9	3	3
適 正	57	65	66	46	57	57	46	56	64	67	70	72	75	80	87	61	68	60
少 ない (B)	38	32	31	46	34	34	54	41	36	29	30	26	25	20	13	30	29	37
DI値(A)－(B)	△33	△29	△28	△38	△25	△25	△54	△38	△36	△25	△30	△24	△25	△20	△13	△21	△26	△34
今－前 / 次－今	4	1		13	0		16	2		△5	6		5	7		△5	△8	
資金繰り	資金繰りが上手に行っているかを判断するためお聞きました。																	
余裕がある(A)	14	9	11	11	9	16	26	12	12	10	7	7	8	7	13	15	11	9
支障がない	68	72	71	62	72	65	57	67	70	68	67	69	92	93	87	76	75	74
苦 しい (B)	18	19	18	27	19	19	17	21	18	22	26	24	0	0	0	9	14	17
DI値(A)－(B)	△4	△10	△7	△16	△10	△3	9	△9	△6	△12	△19	△17	8	7	13	6	△3	△8
今－前 / 次－今	△6	3		6	7		△18	3		△7	2		△1	6		△9	△5	

〈参考〉昨年同期と現在の景況感比較(回答153社)

	企業数	今期構成比	(参考) 前期構成比
昨年と比べ「景況感」は良い(A)	40社	26%	23%
昨年と比べ「景況感」は変わらない、横ばい	84社	55%	58%
昨年と比べ「景況感」は悪い(B)	29社	19%	19%
DI値(A)－(B)		7P	4P

